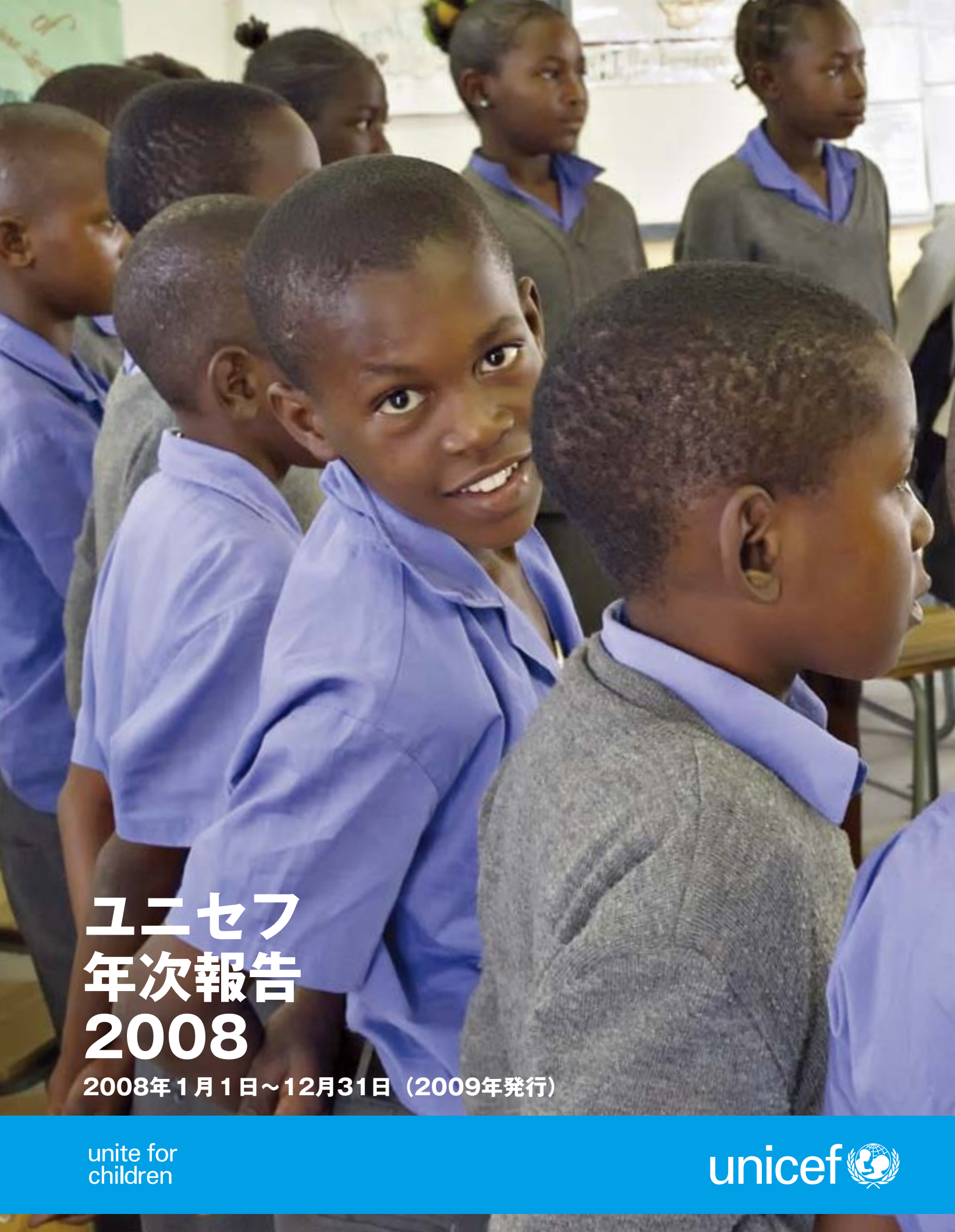




ユニセフ 年次報告 2008

2008年1月1日～12月31日（2009年発行）

unite for
children

unicef 

表紙の写真：

©UNICEF/NYHQ2008-0824/Isaac

ナミビアのオシャナ州北部のエヘンヤ小学校で、放課後に行われる「希望の窓」プログラムでHIV／エイズ予防について学ぶ4年生たち

2ページの写真：

©UNICEF/NYHQ2009-0225/Estey

企業として資金面でユニセフに対して最大の支援を行っているIKEA Social Initiativeの支援を受け、ベトナムの農村部のラオ・カイ省のバン・フォー小学校では、子どもたちが手の洗い方を学んでいる

本書に掲載されている情報の出典について：本書に掲載されているデータは、ユニセフ（国連児童基金）、そのほかの国連機関、ユニセフの各国事務所が提出している年次報告、ならびに2009年6月に開催されたユニセフ執行理事会に提出されたユニセフ事務局長の年次報告に基づく。

本書に記載されている資金額について：断り書きがない限り、すべての額は米国ドルである。

ユニセフ年次報告2008

(2008年1月1日～2008年12月31日)

目次

はじめに	3
2008：危機的な年	4
小さな子どもの生存と発達	7
人道的な行動：子どもの死亡の要因を解明する	9
基礎教育とジェンダーの平等	11
人道的な行動：教室がつぶれないようにする	13
子どもの保護	15
人道的な行動：世界で一番危険な場所	17
HIV/エイズ	19
人道的な行動：襲い来る脅威と闘う	21
アドボカシー（政策提言）とパートナーシップ	23
参加：もう犠牲者ではなく	25
ユニセフの仲間たち	27
国内委員会とユニセフ親善大使たち	29
舞台の裏で	31
財政	33



© UNICEF/NYHQ2009-0225/Estey

はじめに

2008年、ユニセフは世界の5歳未満児の年間死亡数についての最新データを発表した。5歳未満児の死亡数（推計）は、2006年の970万人から、2007年には920万人にまで減少した。1990～2007年の子どもの死亡の年間平均削減率は1.8%であった。

子どもと妊産婦の保健、栄養、水、衛生と衛生教育、基礎教育とジェンダーの平等の分野で効果があると分かった支援事業は拡大された。多くの国で、HIVの検査とカウンセリングが、妊産婦の定期健診時のスクリーニング検査に初めて採り入れられるようになった。小さな子どもの生存と発達を促進しようとする努力では特に顕著な前進が見られ、国際開発協会（IDA）からの資金を使い、保健関連の物資調達を通して、世界銀行や政府といったパートナーと効率的に仕事をする取り決めが2008年に最終合意された。

ユニセフと世界食糧計画（WFP）はパートナーシップを組み、アフリカの角地域での栄養不良を回避するために、すぐに食べられる栄養補助食品（RUTF）を提供した。世界保健機関（WHO）と共に、ユニセフはマラウイ保健省と協働して、6～59カ月の子ども200万人以上に、ビタミンA補給剤を提供した。そして、国際衛生年の一環として、国連水関連機関調整委員会（UN-Water）「衛生に関するタスク・フォース」をとりまとめ、初めての年間行事となる「世界手洗いの日」（Global Handwashing Day）の立ち上げを手伝ったが、これには82カ国から2億人以上が参加した。

ユニセフは、政府、ドナー、アドボケート（政策提言者）らと共にさまざまなキャンペーンを実施し、より多くの子どもたちが学校に通えるようにするため、教育の質を改善するため、また子どもに優しい学校のモデルを広げるために努力した。ユネスコ（UNESCO）、世界銀行、ドナー政府との重要なパートナーシップ、そして、国連女子教育イニシアティブ（UNGEI）でのリーダーシップを通して、ユニセフは、緊急事態下や復興移行期にある国も含めて、各国がミレニアム開発目標2と3（教育の普遍化とジェンダーの平等）を達成できるように支援を行った。

若者の参加を促進する努力は、日本の北海道洞爺湖で開催されたG8サミットと平行して行われた子どもたちによる会合、J8（ジュニア8）サミット（北海道千歳市）で発揮されたほか、リオデジャネイロで開催された「第3回子どもと青少年の性的搾取に反対する世界会議」、メキシコシティで開催された「第17回国際エイズ会議」でも見ることができた。「子どもたちのために、エイズと闘おう」キャンペーン（「子どもとエイズ」世界キャンペーン）にも、若者は継続して積極的に参加している。実際のところ、多くの国々では、15～24歳の若者のHIV感染率が低下しており、大幅な削減が見られるところもある。



2008年、ユニセフは、機関間常任委員会のクラスター枠組みの主要メンバーとして、大規模な地震、洪水、ハリケーン、コレラの蔓延、干ばつに対処した。また、計78カ国での緊急支援を主導、あるいは参加し、1,520万人の子どもたちに保健ケアを、560万人に水と衛生の支援を、430万人に栄養補給を、50万人に保護支援を提供した。

地球的規模の経済後退、そして2008年の上半期に起きた食料と燃料の高騰といった背景を考えると、ユニセフの2008年の成果はさらに重要な意味を持ってくる。こうした世界的な危機は、すでに危うい状況の中で生きる多くの子どもや家族にとって、状況をさらに悪化させるものとなった。しかし、ユニセフは、精力的なパートナーシップと絶え間ないアドボカシー（政策提言）活動を通して、子どもたちに大小さまざまな勝利をもたらしたのである。

2009年も、ユニセフは、関係するすべての人々——地域のコミュニティ、政府、世界のリーダーたち——を巻き込みながら、子どもにとって最良の成果が得られるよう、力を合わせ、女性と子どもたちの支援と保護をたゆみなく続けていく。

A handwritten signature in black ink, which appears to read "Ann M. Beneman".

アン・M・ベネマン
事務局長
国連児童基金

貧しきものが犠牲となる
—フィジー・タイムズ、2008年1月15日

原油の高騰に転ばされる
—マイ・シンチュウ（マレーシア）、2008年1月20日

食糧危機は『静かなる津波』
—ワシントン・ポスト、2008年4月23日

G 8蔵相、石油・食糧危機討議へ
—テヘラン・タイムズ・インターナショナル・デイリー、2008年6月14日

**食糧・エネルギー価格の高騰、
カリブ海地域に最大の打撃**
—ジャマイカ・オブザーバー、2008年7月11日

世界的貧困への脅威、危機的状況
—ジ・オーストラリアン、2008年9月25日

貧しい国々、食糧・原油価格と闘う
—ザ・タイムズ（南アフリカ）、2008年10月3日

経済危機により食糧危機が悪化
—チャイナ・デイリー、2008年10月17日

**1日の収入が2米ドル未満の生活者、
さらに深刻な状況に**
—シカゴ・トリビューン、2008年11月14日